

援農ボランティア、農家サポーターバンクシステムの構築について

高齢化やケガ・病気により定植時期、収穫時期、出荷時期等に農作業が困難になる農家が増加するもと、都市農業に関心があり農家の手助けをしたい市民・消費者と、生産者の双方が、有効に農家・農業を支援するシステムの構築により、生産者と市民・消費者が農に携わり、農地を守り・農を育てる施策が今後、重要である。
その活用がより有効なものにするためには、農家への支援を希望する農家サポーターの技術レベルの向上が不可欠であり、そのための講座を開設することにより、援農希望者の育成を図る必要がある。

農家へのアンケート(耕作実態調査)集約から

- 農家は60代以上が80%超に
- 1人で耕作されている割合は55% 1~3人で耕作では94%
農地で栽培する面積割合が10割栽培する農家は47%。一方で5割未満の層は13%に。
- 農家に後継者いないもしくは承継してくれないが51%
- 栽培面積は10a以下は39% 50a以下なら85%
- 農作業を手助け出来る仕組み・制度があれば利用するが3割
31% 180/581人
- どんな人に来て欲しい
 - ・農作業を知っている人 49%
 - ・経験はないが指示通りに作業をする人 35%
- 手助けしてほしい作物は
 - ・米 44% ・野菜 42%
- 手伝ってほしい作業は
 - 米 ①稲刈り②田植え③収穫④草刈り・草ひき
 - 野菜①草刈り・草ひき②水やり③収穫④種まき

市民へのアンケート(農業栽培の支援に関するアンケート)集約から

- 機会があれば手助け・支援に参加するが33%に
124/371人
- 参加するには
事前調整が必要、日・土日に限定されるが 86%
- 作業時間は 1~3時間 56% 半日以下は84%
- 栽培経験ありは47%
貸農園や福祉農園あるいは自宅や借地の畝やプランターで
栽培経験のある作物は①きゅうり②トマト③なす、オクラ④たまねぎ⑤ピーマン、ねぎ
未経験も47%
- 農作業を手助け出来る形態は
個人参加が6割 個人でもグループでもが2.5割
- 手伝える作業は
①収穫②草刈り・草ひき③荷揃え・包装・出荷作業④種まき・苗植え
操作できる機械は草刈り機
- 援農システムがあれば利用するか
 - ・利用する 53%(全体からみると18% 66/372人)
 - ・利用しない 32%(39/372人)

☆利用したい農家は3割
その内、35%の農家は経験なくても指示通りに作業をする人でも可能と思っている
☆期待する作業は
米の場合は①稲刈り②田植え③収穫④草刈り・草ひき
野菜の場合は①草刈り・草ひき②水やり③収穫④種まき・苗植え

☆市民も機会があれば参加の意向が3割。その内、経験者は47% 未経験者も47%
☆援農に関するシステムがあれば利用する人は
・システムを利用する53%(全体の18%)
・システムを利用しない 32%

○援農側は個人に限らず、大学、小中学校、福祉施設、NPO法人、消費者団体等と多様に考えられる可能性がある

○将来展望として、援農側のメリット・見返りに結び付けるものとして、援農を収穫だけに終わらせず、収穫後の援農側の有効利用・加工品づくりの構想・施策もてないか

具体化の検討

A システム化

1. システムを管理する受け皿の設置と周知・PR
(例)農政課、農業委員会、JA、農業振興啓発協議会、新たな組織
周知・PRの検討
2. 援農を希望する農家の情報を登録
詳細情報(個人情報)と公開情報は区別する
3. 援農を希望する個人・団体の情報を登録
詳細情報(個人情報)と公開情報は区別する
4. マッチングの手法
①双方が掲示板・書き込みの閲覧から連絡
②受け皿が仲介

B ボランティア養成・体験事業

1. 体験事業として募集する
 - ①(作物を限定して作業をしてもらう)キュウリ栽培作業出来ます! ホウレン草栽培作業出来ます!
米作業手伝えます!
 - ②(農地にきてもらう)草刈りできます! 農作業できます!
2. 家庭菜園講習会として作業をしてもらう
3. 農家が育成コーチ(農業ヘルパー育成)となって、栽培技術を教えながら作業を手伝ってもらう